

美しいフグヌハン山



ボルガン県ダシンチレン郡、古都ハラホリンへ行く途中にフグヌハン山がある。フグヌハンとその周辺は1997年に国立公園となり、その6年後には観光地に決められた。この山は長さ87km、幅40kmで、面積は8万4390ha、標高1720m、周辺はゴビ・草原・森林という3つの地形を有している。イヘモンゴル砂丘や長さ80kmのエルセン・タサルハイ砂丘など独特の自然が多い。またこの山にはヤンギル（野生ヤギ）、アルガリ（野生ヒツジ）、オオ

カミ、キツネ、鹿など希少な動物が多く生息している上、葉草も多い。1990年代末、鹿角・鹿茸を取るため密猟し減少していた。ところが、山の動植物を保護したため、鹿が比較的增加してきた。ここには通常約400頭の鹿が生息している。その上200頭の鹿が近くのバトハーン山から移動してきている。言い伝えによると、この山の麓に仏教寺院があった。オイラート・ジュールガル部族長のガルダン・ボショクトは初代活仏ザナバザルが満洲の支配下に降

ったことに反対し、多くの僧侶たちを去勢し、麓で頭をロープで縛って（モンゴル語で「フグスフ」）殺した。このことからこの山が「フグヌ」と呼ばれるようになったという。毎年春になると地元民はフグヌハン山を「ハダク山」と呼んで祀っている。モンゴルでは山のそばを通っている時にその名前を直接呼ばないことが多い。山岳崇拝の習慣はモンゴル人の環境保護に通じている。周辺では16カ所のツーリストキャンプが営業している。

モンゴル国民7000人が拘留

モンゴル国籍をもつ7000人が国内外の刑務所や拘留所で拘留されているという非公式な統計がある。そのうちの80%が16～25歳の若者であり、90%を男性が占めている。この数字は全人口

の380～385人に1人、つまり全人口の0.26%に当たっている。失業・貧困・飲酒などが原因の事件が増加し続けているのは、政策や決定が実際の生活上で実施されず、机上の空論に終わっ

ている表れである。人権問題を扱う国際機関が何度も調査を行い、対策を取り、援助した結果、モンゴル国の刑務所や拘留所の環境が若干改善されたが、人権侵害の状況は変わっていない。

天気予報



3日東部県東側、4日東部県北側に雪が降る。ゴビ地域で12～14℃、3日18～20℃まで吹雪が吹く。ダルハド盆地、イデル、テス、バイダラグ、ハラウ、ユーレー、トーラ、ヘルレン、ハルハ・ゴルの川の周辺地で夜間25～30度、日中15～20度、ゴビ地域で夜間10～15度、日中2～3度、他の地域で夜間15～20度、日中4～9度。週末は急激に寒くなる。

今週の重要用語

原典（げんてん）
公聴会（こうちょうかい）
資本市場（しほんしじょう）
免許停止・免停（めんきよていし・めんてい）
国家勲章（こっかくんしょう）
当選区（とうせんく）
消費者権利局（しょうひしゃけんりききょく）
住宅公共事務所（じゅうたくこうしや）
零細企業（れいさいきぎょう）

эх зохиол
нээлттэй сонсгол
хөрөнгийн зах зээл
жолоочийн эрхийг хасах
төрийн одон
сонгогдсон тойрог
хэрэглэгчдийн эрх ашгийг хамгаалах газар
орон сууц нийтийн аж ахуйн контор
жижиг аж ахуйн нэгж

<一より大きい数字>

NHKの「にほんごであそぼ」で「一より大きい数字の歌」というのをやっていました。一から無量大数（10⁶⁰）までを子供たちが踊りながら数えます。日常生活ではまず使うことのない大きな数字が出てきます。数学者はおもしろいことを考えるものですね。この大きな数字をモンゴル語ではどう言うのか調べてみました。ネグ（一）、アラウ（十）、ゾー（百）、ミヤンガ（千）、トゥム（万）、ボム（十万）、サイ（百万）、ジワー（千万）、ドゥンチュール（一億）、テルボム（十億）、桁がどんどん上がっていき最後は10⁶⁰のウレシグイで終わっています。（A・オロルビードルジによる）日本語の方が10⁶⁰までであるので、より大きな数字まで数えられます。ただし日本語の単位はそれぞれに「十、百、千」が付いて四桁ずつ変わっていくので21種類しかありません。一方、モンゴル語の方は十億まで一桁ずつ名前が変わり、その後は前に「イヘ」が付いて二桁ずつ、10⁶⁰までは再び一桁ずつ名前が変わるので全部で40種類もあるのです。こりゃまいった。

その昔「兆」をモンゴル語でどう言うのか知り合いのモンゴル人に聞いて回りましたが、即答できる人はいませんでした。毎日の暮らしには不要で、意識することなかったのでしょうか。でも私は、日本の予算をモンゴル語で説明するため必要だと思ったのです。辞書で調べてみると、モンゴル国ではロシア語の「トリリオン（trillion）」を使うことが分かりました。「それではモンゴル語では？」という疑問がわきましたが、当時は結局わからずじまいでした。ずっと後になってからある本で「イヘ・ナイド」という単位を見つけて少しホッとしたものです。それから何年もたってモンゴル国の政府予算が1兆トゥグルグを超え、この単位が紙面で普通に見られるようになりました。

上記のようにモンゴル語には日本語と同じように四桁で区切る「万」や「億」という単位があり、内モンゴルでは今でもこれを使っています。一万は「ネグ・トゥム」、十万は「アルワン・トゥム」、一億は「ネグ・ドゥンチュール」（実際には内モンゴル方言で「ドゥンシュール」）と数えます。一方、モンゴル国ではロシアの影響で数法が欧式になり、一万は「アルワン・ミヤンガ（「10千」の意味）」、十万は「ゾー・ミヤンガ（100千）」、一億は「ゾー・サイ（100百万）」と数えるようになって現在に至っています。桁の区切りが日本と違うため慣れないと通訳は大変です。同じモンゴル語を話しても、教え方が日本と同じ内モンゴルのモンゴル人もきっと大変でしょう。

モンゴル国出身でも日本に長く住んでいる留学生の中には数字を日本式に言う人がいます。ただし「ネグ・マン（一万）」、「アルワン・マン（十万）」などと日本語の「万」をそのまま使うのです。せっかく「トゥム」という立派なモンゴル語があるのに残念なことです。ことばや文化の発展のためには新しいものをどんどん取り入れていくことは必要でしょう。でも伝統の全てを「古くさい遅れたもの」と切り捨ててしまっていないのでしょうか。モンゴル語には自らの方言にない表現を他の方言で補ってきた古き良き伝統がありました。モンゴル語は現在でも生命力あふれた素晴らしいことばだと思いますが、使用人口は数百万に過ぎません。古い表現を保ちながら伝統を守ってきた国境外のモンゴル語をまがいの扱いしてしまっているとは私には思えないのです。

（内田敦之）

モンゴル銀行の為替レート（2009年12月3日）

	円	16.83
	米ドル	1450.03
	ユーロ	2184.73
	ルーブル	49.89
	元	212.43
	ウォン	1.25